

「主な取組」検証票

施策展開	3-(12)-才	交流と貢献による離島の新たな振興			
施策	①多様な交流・協力活動の促進				
(施策の小項目)	—				
主な取組	離島体験交流	実施計画 記載頁	344		
対応する 主な課題	○離島地域の振興については、「ユイマール精神」に基づき、県民全体で支え合う新たな仕組みを構築していくことが重要であるが、沖縄本島地域の住民の離島地域への関心は低い状況にあり、多様な交流を通じて相互理解を深めていく必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容	次代を担う児童生徒の豊かな心の育成と芸術文化への参加の機会を増やすため、国有数の芸術団体による舞台芸術鑑賞機会を県内へき地・離島の児童・生徒に提供する。校区や地域、広くは県内・県外に在住する芸術家や技能保持者等を学校に派遣する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
						→	県
	県・文化庁・財団等が主催する芸術鑑賞機会提供事業						
担当部課	教育庁文化財課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成27年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化振興事業費	870	870	文化庁や文化財団、県や市町村教育委員会及び学校等との共催により鑑賞機会提供事業を実施し、竹富町、石垣市、宮古島市、久米島町でミュージカルやオーケストラなどを行った。県費事業は離島・へき地に特化して実施しており、平成27年度は与那国町で木管五重奏、粟国村で金管五重奏を行い、300人(7校)の生徒が鑑賞した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
文化庁等提供事業芸術鑑賞児童生徒数			—	12,269人 (27年)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果			
順調	事前のワークショップ等での指導や公演本番での共演により、児童が人前で堂々と大きな声で歌ったり、演じたりすることができた。舞台に立つ喜びや達成感、充実感を得、他の児童にも刺激を与えることができ、表現活動の育成につながった。児童の感想の中から「音楽って楽しい。先生達のように私もうまく楽器を弾けるようになりたい。」等の前向きな意見が多数あり、豊かな心(感性や創造性等)を育む効果があった。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成28年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化振興事業費	802	離島・へき地の芸術鑑賞機会提供事業を、多良間村と座間味村で予定。	県単等

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成27年度の取組改善案	反映状況
<p>①実施した事例や生徒の感想を取りまとめ、学校現場へ芸術鑑賞の効果を周知し、鑑賞教室の有用性を知ってもらうことで、申し込みを増やす。</p> <p>②日程調整の際に、暑い時期や海がしけて移動が困難な時期を避けるなど、実施校と十分に調整して鑑賞提供時期を決定する。</p>	<p>①各市町村の文化行政担当者が参加する行政説明会に出席し、に学校へ芸術鑑賞の効果を周知してもらうなど、積極的に関与するように依頼した。</p> <p>②実施期間を10月から2月と幅を持たせ、台風が到来しやすい時期を避け実施した。</p> <p>③各市町村教育委員会及び実施校、実施団体と詳細に打ち合わせを行い、実施校に即したプログラムで演奏会を行った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
文化庁等提供事業芸術鑑賞児童生徒数	13,482人 (25年度)	14,536人 (26年度)	12,269人 (27年度)	→	—
状況説明	<p>本物の芸術に触れる良い機会であり、プロの芸術家等を招聘するには、かなりの経費がかかるため、国や県、財団などが費用を負担し芸術鑑賞機会を提供することは、児童生徒の豊かな心(感性や創造性)を育む上で、大変有意義であり、効果がある。</p> <p>文化庁等提供事業芸術鑑賞児童生徒数については、H26年度と比較して2,267人減少したが、実施校は58校から64校に増加していることから、成果は出ており、引き続き周知を行っていく。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県は現在、学力向上の対策が最重要課題であるため、各学校とも授業時数の確保等が優先される傾向が見られる。 ・行政説明会や教頭会等で事業の周知は進んでいるが、市町村によって応募学校の差が見られる。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県に比べても離島が多いことなどから、準備に要する時間や移動時間がかかるため開催回数に限られ、芸術文化に触れる機会がまだまだ足りない。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・離島やへき地などの子どもたちが優れた文化芸術を鑑賞できる機会がまだ十分ではないため、文化創造活動の尊さや芸術の感動を体感できるようにするため、鑑賞教室の実施を引き続き推奨する必要がある。 ・行政説明会や教頭会等で、文化芸術鑑賞による生徒の感想や感動などを示すなど、資料の内容を工夫する必要がある。
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・市町村行政及び指導主事研修会や中高教頭研修会にできるだけ参加し、周知を図る。 ・実施校の生徒の感想の配布や、文化芸術鑑賞による生徒の変化をわかりやすく示すなど、資料の内容を検討する。
